

教育実習を通じて形成された意欲についての検討
～中学校・高等学校保健体育科の教育実習に着目して～

津坂 雄哉 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 仲宗根 森敦

キーワード：教育実習，教職，成功体験

1. 緒言

教育実習は、教員志望者において必修科目である。筆者は教育実習を行った結果、教職に対する意欲がどのように変化するかを明らかにしたいと考えた。教員の病気離職者も増加しており、その中の約9割が精神疾患が原因であるためである。そのため筆者は、教職履修者自身が、教員としての適性があるのだろうか教育実習を通して吟味しなければならないのではないかと考えた。教育実習を通して、教員を目指す意欲にどのような影響を及ぼし、具体的にどのような点が心境を変化させるのかということについて、明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究の調査対象は、本学に在籍する4年生の中の、教職課程履修者4名。なお、2名は教育実習を通じて意欲が向上した者、2名は意欲が低下した者である。対象者に半構造化インタビュー調査を実施した。大まかな質問項目を表1に示した。表1の項目以外にも、対象者の返答次第でより細かく質問していた。

(表1：大まかなインタビュー項目)

1	インターンシップの実習先。
2	スポーツ歴。
3	教員を目指そうと思ったきっかけ。
4	インターンシップを終えた感想。
5	インターンシップでの経験を踏まえ、どのような心構えで教育実習に臨んだか。
6	教育実習を終えた感想。
7	教育実習を終えて、行く前よりも教員を志す意欲が高まったかどうか。
8	教育実習を行ってどのような点が教員を志す意欲が向上したのか。(低下したのか)
9	理想の教師像。(向上した者のみ)

3. 考察

インタビューの結果、教員を目指す意欲が向上した2名は教育実習が始まる前に事前準備を万全に整えていたため、大きな失敗をすることなく授業を実施することができた。また対象者のおかげで生徒ができなかった運動ができるようになり授業で行った運動が好きになったため、大きな自信を得ることができた。このような数々の成功体験が、教員を志す意欲を強めたと推測する。

意欲が低下した2名のうち1名は、担当教員との折り合いが上手くつかず、充実した実習にならなかったことが挙げられた。もう1名は、事前準備を怠ったため数々の失敗を繰り返してしまい、自信を無くしたことである。このように教育実習の中でのつらい経験が教員を志す意欲が、低下したと推測される。

4. 結論

教育実習を通じて教員を志す意欲を向上させる要因は、教育実習に対して努力をしたことが成就し、数々の成功体験したことである。さらに、生徒と良好な関係を築き、コミュニケーションを図ることが大切であると考えられる。そのためには、十分に担当教員と打ち合わせをし、入念な事前準備が必要であると言える。また教員養成系以外コースの者も、教員養成系のコースに匹敵するカリキュラムを学校側が用意することが、今後の課題と考えられる。

引用・参考文献

オアシス (2011)「教員における病気離職者／離職者総数の構成 推移」

<http://www.oasis-room.com/counseling.html>